

## マクロ経済学 期末試験

2009年2月8日実施

### 問題1 (10点)

「クラウドディング・アウト」を説明せよ。

### 問題2 (10点)

ある企業がA～Eの設備について投資計画を考える。それぞれの設備の価格,1年後の収益は次表に示されている。設備資金はすべて銀行から借り入れ、利率が5%の時,この企業はどの設備に対して投資を実行するのが妥当か。

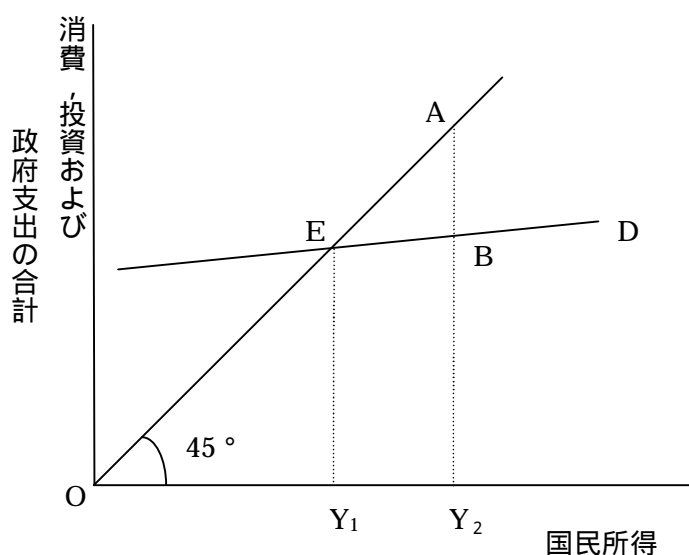
設備	A	B	C	D	E
設備の価格	30	50	70	90	110
収益	33	52	73	97	115

- 1 AとB
- 2 AとD
- 3 BとC
- 4 CとE
- 5 DとE

### 問題3 (10点)

次の図は縦軸に消費，投資および政府支出の合計を，横軸に国民所得を取り、総需要曲線を D で表したものである。今，均衡国民所得を  $Y_1$ ，完全雇用国民所得を  $Y_2$  としたとき，有効需要理論による国民所得の決定メカニズムに関する次の記述のうち，妥当なものはどれか。

【地方上級・平成9年度】



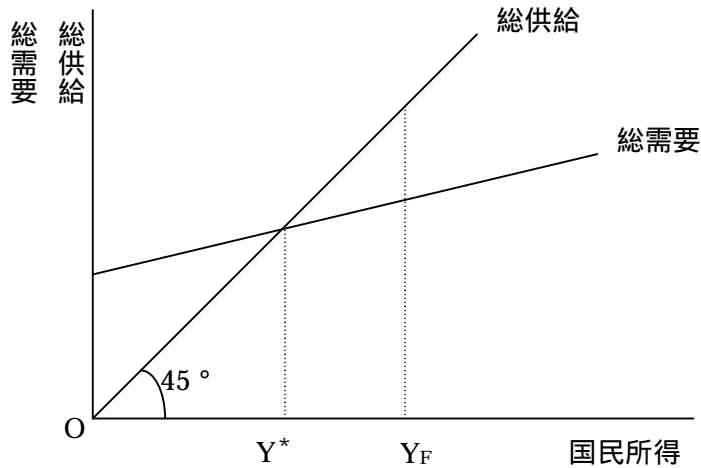
1. AB はデフレ・ギャップを表しており，これを解消するためには消費性向の引上げ，投資の拡大または政府支出の増加が必要である。
2.  $Y_2$  と  $Y_1$  の差はデフレ・ギャップを表しており，これを解消するためには消費性向の引上げ，投資の拡大または政府支出の増加が必要である。
3. AB はデフレ・ギャップを表しており，これを解消するためには貯蓄性向の引下げ，投資の縮小または政府支出の削減が必要である。
4.  $Y_2$  と  $Y_1$  の差はインフレ・ギャップを表しており，これを解消するためには貯蓄性向の引下げ，投資の縮小または政府支出の削減が必要である。
5. AB はインフレ・ギャップを表しており，これを解消するためには貯蓄性向の引下げ，投資の縮小または政府支出の削減が必要である。

#### 問題 4

図は国民所得と総供給，総需要の関係を表したものである。ここで  $Y^*$  は均衡国民所得， $Y_F$  は完全雇用国民所得であり， $Y_F$  は 500 兆円である。また，投資を 50 兆円とし，消費関数を  $C=0.6Y + 50$  (単位：兆円) とする。

このとき， $Y_F$  に関する次の記述のうち，妥当なものはどれか。ただし，政府部門は考慮せず，総需要は消費と投資からなるものとする。

【国家二種・平成 10 年度】



1.  $Y_F$  においては，インフレ・ギャップが生じており，その金額は 100 兆円である。
2.  $Y_F$  においては，デフレ・ギャップが生じており，その金額は 100 兆円である。
3.  $Y_F$  においては，インフレ・ギャップが生じており，その金額は 50 兆円である。
4.  $Y_F$  においては，デフレ・ギャップが生じており，その金額は 50 兆円である。
5.  $Y_F$  においては，インフレ・ギャップもデフレ・ギャップも生じていない。

問題 5 (10 点)

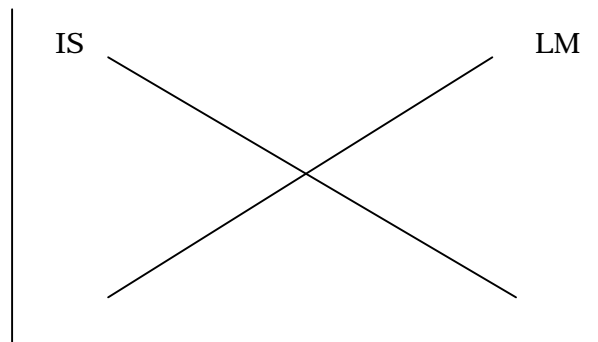
貨幣需要に関する次の記述のうち，妥当なものはどれか。

- 1 貨幣の取引需要は，主に国民所得の大きさに依存するとされているが，国民所得に対する貨幣の取引需要の比率が大きくなれば，LM 曲線は右下方にシフトする。
- 2 貨幣の取引需要は，主に利率に依存されているとされており，利率が上昇すれば，LM 曲線は左上方にシフトする。
- 3 貨幣の資産需要は，主に国民所得の大きさに依存するとされているが，国民所得に対する貨幣の資産需要の比率が大きくなれば，LM 曲線は右下方にシフトする。
- 4 貨幣の資産需要は，主にマネーサプライに依存するとされているが，マネーサプライが変化しても，貨幣の資産需要が一定の時，流動性のわなが存在する。
- 5 貨幣の資産需要は，主に利子に依存するとされており，利率が上昇すると資産需要は減少する。

【地方上級・平成 2 年度】

問題 6 (10 点)

次の図に関する記述のうち，正しいのはどれか。ただし，以下の記述において，M：貨幣供給量，L：貨幣需要量，S：貯蓄，I：投資，r：利率，Y：国民所得，である。



- 1 M の増加により，LM 曲線は左方向に移動するため，国民所得は減少する。
- 2 の領域において， $S < I$  ， $M < L$  の関係が成立している。
- 3 L の利子弾力性が大きいほど，LM 曲線の傾きは緩やかになるが，この利子弾力性がゼロになった状態を流動性のわなという。
- 4 の領域において， $S > I$  ， $M < L$  の関係が成り立っている。
- 5 政府支出の増加は，国民所得を増加させるが，LM 曲線の傾きが急なほど，クラウディング・アウトが生じやすい。

【地方上級・平成 3 年度】

問題 7 (10 点)

マクロ経済モデルが次のように与えられるとき以下の設問に答えなさい。

消費関数  $C = 100 + 0.5Y$

投資関数  $I = 140 - 10i$

貨幣需要関数  $L = 0.2Y + 252 - 8i$

貨幣供給量  $M = 300$

IS - LMより、均衡利子率  $i_0$  を求めなさい。

- 2
- 4
- 6
- 8

問題 8

マクロ経済における，IS-LM 曲線が，

IS 曲線： $Y = 100 - 20r + G$

LM 曲線： $Y = 45 + 10r + 0.5M$

Y：国民所得，r：利子率  
 G：政府支出，M：マネーサプライ

で示されるとする。今，政府支出が 30 増加し，マネーサプライが不変であったとき，利子率はどのようになるか。ただし，物価水準は一定である。

- 1 不変である。
- 2 0.25%上昇する。
- 3 0.5%上昇する。
- 4 0.75%上昇する。
- 5 1%上昇する。

問題 9

ある国の経済が，

$Y = C + I + G$

$C = 10 + 0.5Y$

$I = 90 - 1000r$

$L = 100 + 0.5Y - 1000r$

$M/P = 200$

$G = 100$

Y：国民所得，C：消費  
 I：民間投資，G：政府支出  
 r：利子率，L：実施貨幣需要  
 M：名目貨幣供給量，P：物価水準

で示されるとする。政府支出 G が 300 に増加したとき，民間投資はクラウディング・アウトによりどれだけ減少するか。

- 1 20
- 2 40
- 3 60
- 4 80
- 5 100

問題 10 (10 点、無記入は 0 点)

この授業に関する感想を書いてください。